



藤本 康太さん

Fujimoto Kota

〔下田口区〕

ふじもと・こうた / プロサッカー選手。平成17年、熊本県府高からセレッソ大阪に入団し、ディフェンダーとして活躍。昨季24試合出場0得点。

粘り強い守備に磨きをかけて 攻撃を支える起点を目指す

「プロ選手として過ごした6年間で、1試合にかける集中力がさらに強くなった」と自己分析するのは、Jリーグ・セレッソ大阪で活躍する藤本康太選手。「練習も公式戦も、どの局面でも、そのときのプレイが自分

の評価につながるので一瞬たりとも手は抜けない」と、しのぎを削るプロの厳しさを語る。昨季のセレッソは1部に昇格して、リーグ戦で飛躍し3位的好成绩。今季は国内のみならず、アジアの頂点を目指す大会での

戦いも待っている。「昨季は、ベンチスタートが多くて苦しいシーズンだったが、いい経験になった。選手としては、試合に出ることが第一。今季は、練習でいい準備をして、さらに上を目指したい」と決意がにじむ。「子どものころは、家でも学校でも常にボールを蹴っていた」と振り返る藤本選手は、小・中学生時はクラブチームでプレイ。高校生のとき、DFと

してのヘディングの強さや1対1での粘り強い守備がスカウトの目に留まり、プロの道へ。厳しいプロの戦いを繰り広げる中で、守備時の危険を察知する能力が上がリ、ピッチでの視野が広がったことで、「味方選手に対して声を掛けて、いかに守りやすくするかを指示するコーチングの部分が伸びた。守備は奥が深く、チームの中でも重要なポジション」と話す。サッカーに取り組む子どもたちへ上達するアドバイスとして、「サッカーの基本は、攻撃も守備も1対1。その勝負に負けたらゲームも負けてしまう。サッカーを楽しむながら、自分が目指している未来に向かってがんばってほしい」とエールを送る。間もなく開幕する今季は、「セレッソとしては、アジアの戦いも含めて、タイトルを獲得すること」が目標。「今のサッカーは、DFが攻撃の起点としてボールをつなぐことが重要。今季は、個人としては持ち味の守備に加えて、チームの攻撃を後ろから支えるようなプレイも出せるようにしたい」とさらなる飛躍を誓う眼光は鋭い。